

**A群科目に関する「学生による授業評価」  
報告書**

**2003**

**京都大学大学院人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会  
京都大学高等教育研究開発推進機構**

# 目次

はじめに	1
第1章 調査の概要	3
1 実施	3
2 回答者	5
3 集計と情報の管理	6
4 本報告書の構成	7
第2章 A群科目全体についての学生の意見	8
1 A群科目の多様性	10
2 時間割の調整に苦心	14
3 理系にA群科目は不要？	17
4 履修制限	21
5 授業の環境・雰囲気	23
6 授業の内容が難しい	26
7 授業の仕方に工夫が必要	29
8 マイクなどの設備とその使用法	32
9 肯定的評価の明示	34
10 否定的評価の明示	37
11 その他	39
(1) 学生の質が問題	39
(2) 出席について	40
(3) 単位の認定について	41
(4) 教官の遅刻	42
(5) 板書について	43
(6) その他	43
まとめ	44
回答内容から得られたこと	44
理系学生とA群科目	45
第3章 個々の授業に関する学生たちの意見	47
1 講義内容が面白い	49
2 話がわかりやすい	52
3 雰囲気がよい	53
4 授業の進め方に工夫がある	55
5 講義の内容が期待通りでない	57
6 講義が難しすぎる	58
7 説明が分かりにくい	59
8 声が小さい	60
9 教室の設備が悪い	60
10 板書に問題あり	61
11 その他(悪い点)	61
まとめ	62
おわりに	63

巻末資料1：A群科目に関する「学生による授業評価」協力のお願い

巻末資料2：平成15年度前期A群科目「学生による授業評価」調査票

## はじめに

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会は、2003（平成15）年6月から7月にかけて、同年度前期開講のA群科目（A・B群科目も含む）の中から基礎論系講義科目を中心に20の授業科目を選び、「学生による授業評価」を実施した。この「学生による授業評価」は、今年度（平成15年度）新たに設置された教養教育専門委員会および同A群科目部会の後援のもとに行われた。本報告書ではその結果を報告することにすが、最初に今回の「学生による授業評価」に至るまでの経緯とこの試みの目的を簡単に記しておきたい。

2002（平成14）年11月1日から11月2日にかけて、当時の「カリキュラム専門委員会全学共通科目在り方検討WG」（座長・荒木光彦工学研究科教授）の呼びかけで「京都大学教養教育ワークショップ」が開催され、総合人間学部、人間・環境学研究科のA群科目担当教官と各部局の代表者との間でA群科目の理念、現状をめぐる活発な議論が交わされた。その模様は、「京都大学教養教育ワークショップ・全学共通科目の在り方 - 特にA群科目について -」（平成15年3月発行）と題された報告書にまとめられている。総人・人環の人文・社会系全学共通科目担当者と各学部の教官とが、膝を突き合わせてA群科目の教育について議論するという機会はこれまでになく、その意味でこのワークショップ開催には画期的な意味があった。今回の「学生による授業評価」もこのワークショップの延長線上で企画されたものである。

ワークショップでは、我々A群科目教育の現場にいる教官が、ふだんどのような心積もりで授業を担当しているのか、教養教育の理念をどう考えているのか、現今の学生の受講態度はどのようなものか、などの諸点につき、率直な意見・感想を開陳した。そこで語られたことは長年のA群科目担当経験に裏打ちされたものであったが、必ずしも受講している学生についての具体的なデータに基づくものではなかった。たしかに教官の中には、自分自身の授業についてある程度のデータをもっている者もいたが、A群科目を受講している学生総体についてのデータは皆無であり、その限りで、議論そのものが「教官の思い込み」に過ぎないと評されてしまう余地がないとはいえなかった。

ワークショップでの経験から、受講学生の全体についてまとまった情報を得ることの

必要性を痛感した我々は、初めての試みとして「学生による授業評価」を実施することにした。上に述べたことから明らかなように、「学生による授業評価」と銘打ってはいるものの、通常的那种のものとはちがい、主たる目的は、A群科目総体に対する学生の態度・意見を把握することにあった。学生に個々の授業を採点・評価させるという意図は、今回の試みとは無縁であった。本報告書もそのようなものとして読んでいただければ幸いである。

## 第1章 調査の概要

### 1 実施

今回の「学生による授業評価」(以下煩雑なので「調査」と略記)の目的についてはすでに記した。その目的に沿った調査を2003年6月23日から7月4日にかけて実施した。実施に際しては、調査対象となった20科目の担当教官が授業時に調査票および依頼文を配布し、各自持ち帰って記入してもらうという方式をとった。そして記入済み調査票を共通教育教務掛脇に設置したポストに投函してもらうことにした。なお授業に出られなかった学生のため、調査票・依頼文の配布は、共通教育教務掛の窓口でも行った。配布・回収をこのような方式にすると、回収率は低くなることが予想されるが、その分内容の濃い回答が寄せられるのではないか。このように考えて、こうした実施方法を採用した。

質問は二つに絞った。すなわち当該授業(問 )とA群科目全体(問 )について「(日頃)考えていること、感じていることを自由に書いてください」というものである。細かな質問項目を設定しなかったのは、我々の側にそれに必要な情報が蓄積されていなかったということもあるが、主たる理由は、条件をまったく与えなかったときに学生がどのような反応をしてくるかということに純粋な興味を抱いたからである。こちらが「自由に書いてください」と言ったときに学生がどのような反応を示すか。この反応を見ることを通してA群科目の教育全体について考えていきたい。これが我々のもくろみであった。(巻末資料1、2参照)

なお言うまでもないことだが、問 (A群科目全体についての問い)は、人間・環境学研究科専任教官による全A群科目、およびそれ以外の部局提供のA群科目、あるいは非常勤講師担当の科目もすべて含んだ「A群科目全体」についての意見を求めたものであり、調査対象となった20科目の全体について訊いたものではない。

このような方法で調査を行うことについては、当然、これではA群科目の受講に積極的な学生の声しか聞けないのではないか、全体の動向を把握することにはならないのではないか、といった反論がありうる。こうした反論の合理性は明らかだが、今回我々はあえて受講に熱心な学生の声聞いてみることにした。初めての調査ということもあり、A群科目の授業の中核にいる学生の生の声を何よりもまず聞いてみたいと思ったのである。

以下に今回調査を実施した科目（担当教官）を一覧にして示す（表 1 - 1）。

表 1 - 1 調査を実施した科目（担当教官）

哲学・思想系
倫理学基礎論（佐藤義之）
論理学基礎論（安井邦夫）
歴史・文明系
東洋史学基礎論（愛宕元）
西洋史学基礎論（川島昭夫）
西洋史学基礎論（島田真杉）
芸術・言語文化系
芸術学基礎論（篠原資明）
芸術学基礎論（岡田温司）
日本文学基礎論（須田千里）
行動科学系
教育学基礎論（岡田敬司）
教育学基礎論（小山静子）
社会学基礎論（吉田純）
社会学基礎論（大澤真幸）
社会学基礎論（高橋由典）
地域・文化系
人文地理学の基礎（金坂清則）
人文地理学の基礎（小方登）
社会科学系
社会・経済システム原論 A（間宮陽介）
経済学基礎論 A（大黒弘慈）
現代国際政治論（中西輝政）
複合系（A・B群）
科学論・科学史基礎論（冨田恭彦）
精神保健学基礎論（新宮一成）

## 2 回答者

有効回答数は、247 であった。回答は上記 20 科目すべてに満遍なくあった。回答者の学部別構成をグラフにして示すと以下ようになる（図 1 - 1）。参考までに学生定員の学部別構成をも示すことにする（図 1 - 2）。

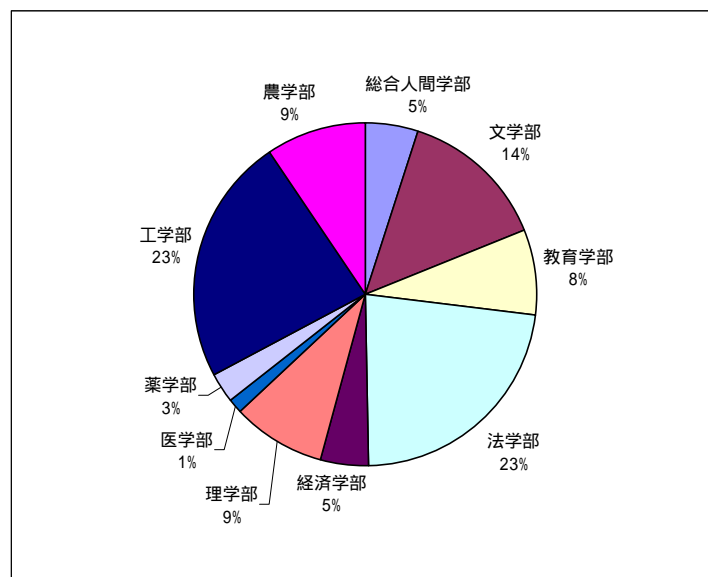


図 1 - 1 回答者の学部別構成

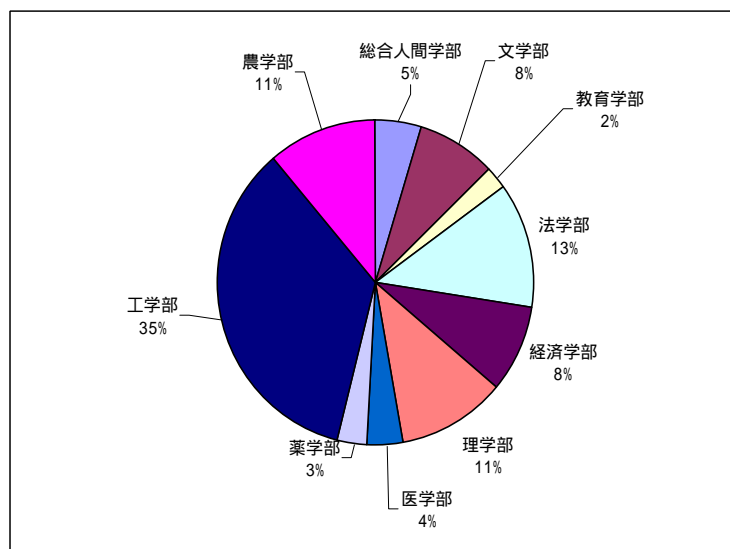


図 1 - 2 学生定員の学部別構成

グラフを見ると、回答者に若干の偏りはある。すなわち文、教、法の各学部の回答者の比率は定員比に比して大きく、他方工、医、経の各学部に関してはそれが逆になっている。また文系学部の比率が高い。ただこの偏りは調査結果の代表性を疑いうるほど大きいものとは思えないので、以下の記述においては無視してもかまわないだろう。

回答者の学年別構成は以下のようになっている（図1 - 3）。1回生が9割以上を占めている。A群科目の受講者全体の学年比からすると、明らかに1回生に偏っているが、そのことによる回答の偏りはないものと考えておきたい。

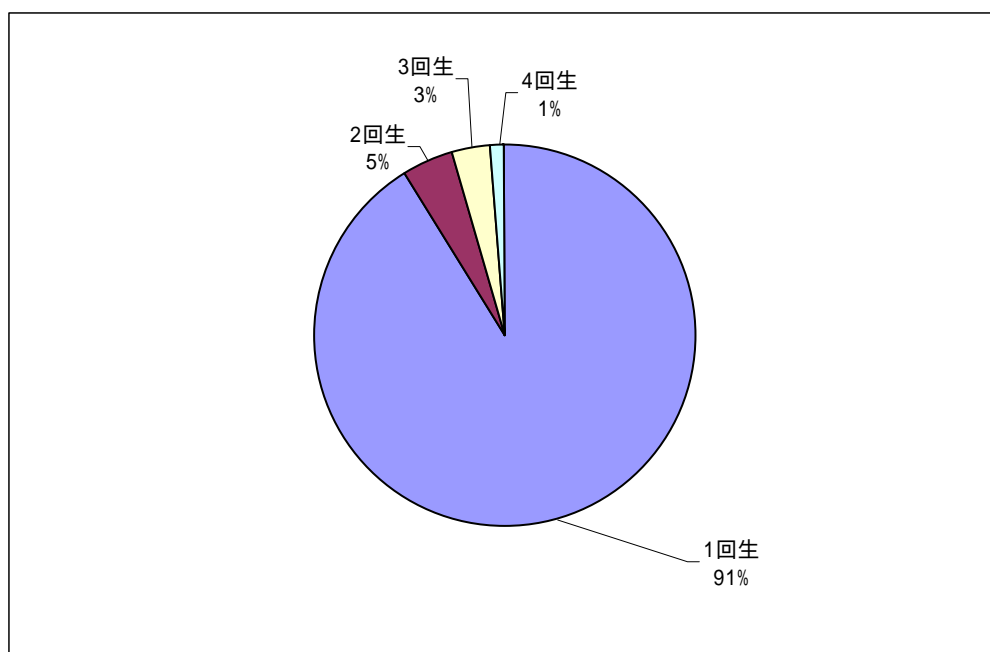


図1 - 3 回答者の学年別構成

### 3 集計と情報の管理

今回の調査は自由回答方式を採用したので、集計にあたってはその方式の特性をできるだけ生かすようにした。すなわちなるべく数値化は行わず、回答内容の文言を残したまま集計するようにした。

あらかじめ複数の項目（たとえば、履修者制限についての言及、時間割についての言及、教室の設備についての言及など）を設定し、個々の回答内容をその項目に即して分類した。したがって多くの場合、一つの回答に複数の項目が該当することになった。分



類に当たっては、客観性を確保するため、複数の人間が関与するようにした。質的なデータのとりまとめという事柄の性質上、恣意性の混入を排除するには特段の配慮をした。また回答には個々の授業・教官に関連する情報が多く含まれていたため、情報の管理には十分な注意を払った。

#### 4 本報告書の構成

本報告書では、本調査の趣旨に沿って、調査票の順序とは逆に第2章でA群科目全体についての回答内容(問 )を紹介し、第3章で個々の授業についての回答内容(問 )を紹介することにしたい。

## 第2章 A群科目全体についての学生の意見

この章では、「A群科目の授業全体について、考えていること、感じていることを自由に書いてください」(問 )という問に対する回答を紹介する。最初に回答内容を項目別に整理したものをグラフ(図2 - 1)で示そう。数字は、回答の頻度を表す。すなわち「制度に関する記述」が32とは、247の回答のうち、32の回答が(単位設定、科目群の分類などの)制度についてふれているということである。

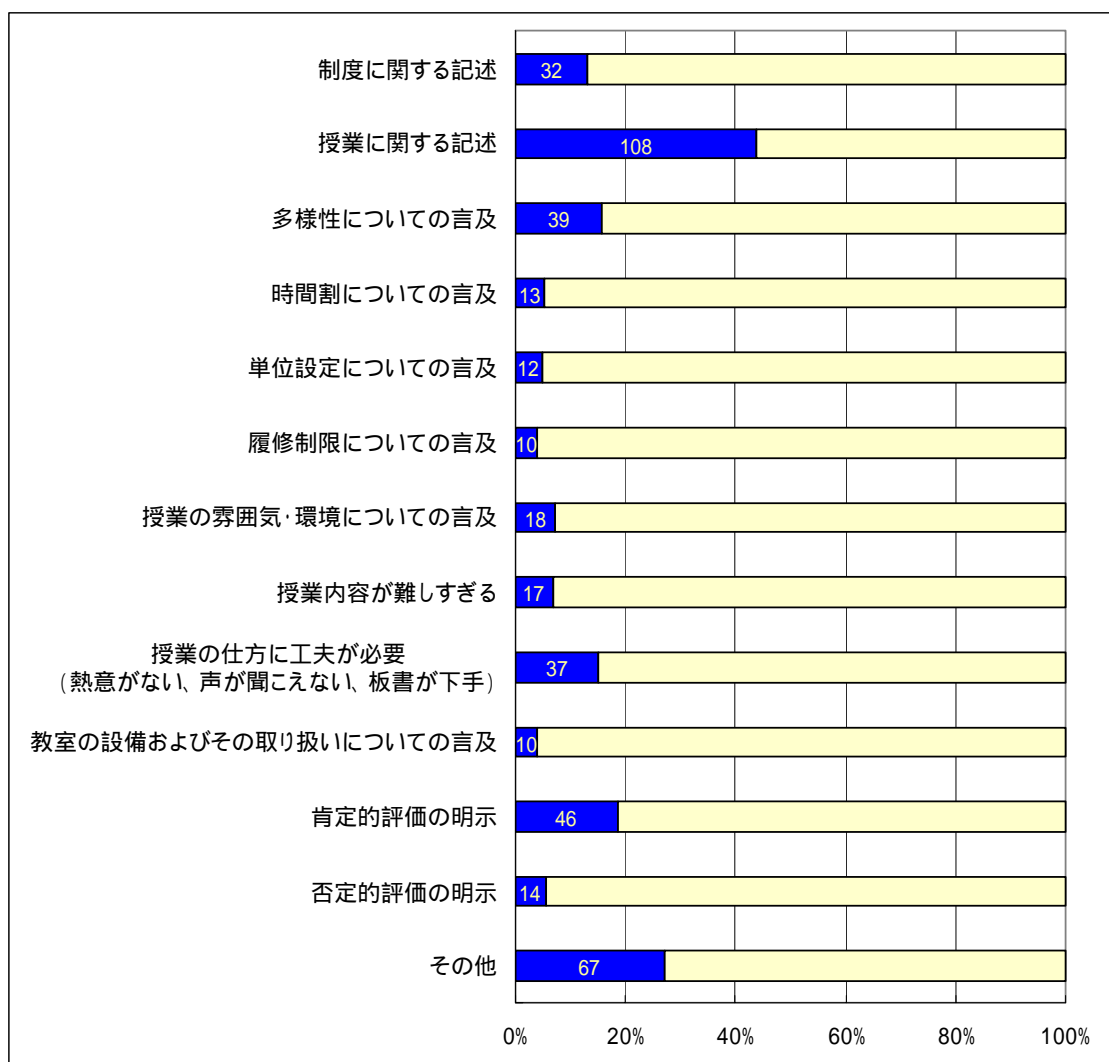


図2 - 1 問 の回答(項目別)

これらのグラフのうち上から 1 番目と 2 番目のもの（「制度に関する記述」と「授業に関する記述」）は、回答のいわば形式的な分類に関わるので（制度や授業についての回答を内容無関係に一括している）省き、以下では、回答の具体的内容に関する 3 番目以降の項目に注目していきたい。それぞれの項目ごとに回答例を（学生の言葉そのままに）掲載するとともに、それについて若干のコメントをするといったかたちで進めていきたい。なお繰り返しになるが、問 1 は、人間・環境学研究科専任教官による全 A 群科目、およびそれ以外の部局提供の A 群科目、あるいは非常勤講師担当の科目もすべて含んだ「A 群科目全体」についての意見を求めたものである。

## 1 A群科目の多様性(39\*)

- ・ A群の先生は、おもしろくわかりやすい人と、自分の世界に生きていてよくわからない人の両極端な気がします。(教育学部3回生)
- ・ 面白いもの、面白くないもののアタリハズレは大きいと思う。(法学部1回生)
- ・ わかりやすい授業と、よくわからない授業がはっきりしている。(農学部1回生)

A群科目の授業は、その難易度、教官の熱意、面白さの度合い、などの諸点において多様であり、ひと括りにすることは難しいという意見が目立った。授業が多様であるということは、そのそれぞれに反応する学生層の関心・興味も多様であるということの意味する。ある学生にとって難しくてしかたのない授業が、他の学生にとってはそうでもなかったり、ある学生には興味深い講義内容が、別の学生には退屈でたまらなかったりする、といったことがしばしば起こるようだ。

学生たちはこの多様性を「授業によって、教官によって当たり・はずれが大きい」というように表現することが多い。この表現は、履修そのものが一種の賭け的な仕方で行われていることを示唆する。履修登録の締め切りが早くてよくわからないうちに、ともかく登録だけは済ませた。授業をその後何回か聴くうちにその授業は自分にとって「当たり/はずれ」であることがわかった、という言い方がよくなされる。

以下に回答の抜粋を示す。数字は回答の通し番号である。

008

講義によって難易度の差が激しい。教官によっては、講義をする気があるのか？と感じる方もいる。(法学部1回生)

---

\* 数字は、その項目の回答数

012

難しい科目も簡単な科目も同じ単位なので、要領が悪いとまじめに授業に出ても単位がとれそうもない。(法学部1回生)

033

教官によるアタリ・ハズレが大きい。一度外部の人が授業評価すべき。またもっと大きな教室を用意してほしい。いつもすわれない。(理学部1回生)

039

自分の取っているA群の授業からして史学から心理学まで多岐にわたり、何とも一まとめに言い表すようなことは思いつきませんが、むしろあまりに多くありすぎて、1つの授業に集中して取り組むことが私たち学生にも(おそらく先生方にも)難しいという事があるのではないのでしょうか。(文学部1回生)

041

教官が、「学生に対して授業をしている」という姿勢に欠けていることがしばしばあり、一人でぶつくさ言っているだけだったり、自分しか持っていない本についてコピーも配らずにずっと解説しているというのは不親切だし、教官としての義務を果たしていないと思う。遅刻してくる教官が多いのも問題だ。でも一方では教官のやる気も感じられるし、授業内容もしっかりしている授業もあるので、そのことは評価できる。

教室について言えば、席がいっぱいで立ったまま講義を聞かなければならない人がいる授業もあれば、ガラガラの授業もあるので都合がつくのであれば教室の交換などをしてもらいたい。(総合人間学部1回生)

065

「生徒に講義内容を伝える」というより「誰にも伝えようとしていない」ように見える先生がおられます。出たくなくなります。「別の講義にしておけば」としばしば思います。残念ながら、現状はなかなか改善できないでしょうから、かわりに「登録変更期間」は長く設けて欲しい。(工学部1回生)

098

理系の人でも文系のいろいろな分野が学べていいと思います。実際いろいろな考え方ができるようになっていると思います。(工学部1回生)

099

板書がきれいな人、雑な人、早すぎてノートとっていると声が聞けない人など様々いる。(法学部1回生)

101

A群の先生は、おもしろくわかりやすい人と、自分の世界に生きていてよくわからない人の両極端な気がします。それはそれで学問的ムードが味わえていい気もしますが、もうちょっと「授業をする」ことを考えてもいいのではないかと思う先生も、いました。(教育学部3回生)

105

文系なので共通科目はほとんどA群で埋めているのですが、先生によって授業態度に差があると思う(熱意等)。やる気がないのも先生の味であったりはそののだが…。それでも基本的には様々な教科があっておもしろいと思うので、これからも教官の個性が十分出ているような、幅広い授業を展開して頂けるよう期待しております。(文学部1回生)

116

私は文系なので、文系科目のA群は基本的に面白いと感じます。ただ、教授によって授業に対する熱意に差があるように思います。スライドやビデオを使って工夫をこらしてくださる人もいれば、ぽつぽつと一人言のように話される方もいて、一概には言えません。「自分のやっている研究・学問の素晴らしさを学生に伝えたい!!」というやる気のある授業を期待します。(文学部1回生)

131

学生側にも問題があるのかもしれないが、やる気のある先生と、ない先生のギャップがはげしい。別に自由だといえはそうなのだが、やっぱりないよりある方が身が入る。  
(法学部1回生)

180

面白いもの、面白くないもののアタリハズレは大きいと思う。授業の進め方が最初にフローチャート形式で示されるとわかりやすくきけるので、積極的に行ってもらいたい。理系の生徒に「どうせA群だから」となめられているのが悔しい。文科系としてぜひがんばってもらいたい。(法学部1回生)

184

熱心な教官も多いが、そうでない教官も多いと思う。(工学部1回生)

241

わかりやすい授業と、よくわからない授業がはっきりしている。よくわからない授業をしている先生は自分の専門分野を話すことで自己満足している感じがする。(農学部1回生)

## 2 時間割の調整に苦心（13）

自分の取りたかった A 群科目（芸術系）が語学などとすべて重なっていて取れなくてくやしかった。（理学部 1 回生）

クラス単位の授業が多い学部の学生の中には、クラス指定科目のために自分の好きなとりたい講義科目がとれず、興味のない科目をとらざるをえなくなった、何とかしてほしいと言う学生がいる（たとえば 018「専門科目と時間が重なっていて受けたくても受けられない科目があつてとても残念だった。前期と後期で授業時間を変えて欲しい」あるいは 020「他にもおもしろそうな授業はあったのですが、専門科目などと時間が重なって受講できなかったのがとても残念でした」）。彼らによれば、無気力受講のかなりの部分はこの制度の不備から生まれる（082「理系はクラス指定で時間割が埋まってしまうために、本当に自分の取りたい A 群がそれらとかぶってしまうことが多く、興味のない A 群を無理矢理入れているというのが実状だからだ」）。

016

教職に必要な科目の授業を朝一番にするのはやめてほしい。クラス指定の授業が同じ時間に入っていてその授業に出られないことが多いので、5 限あたりにまとめてほしい。（工学部 1 回生）

018

専門科目と時間が重なっていて受けたくても受けられない科目があつてとても残念だった。前期と後期で授業時間を変えて欲しい。（工学部 1 回生）

020

受講している 5 つのうち、おもしろいと思って選んだのは 2 つで残り 3 つは仕方なく履修しました。他にもおもしろそうな授業はあったのですが、専門科目などと時間が重なって受講できなかったのがとても残念でした。（農学部 1 回生）



031

A 群科目は基本的に面白そうなものが多く、文学部の学生でなくても日本文学について学べたりするし、芸術や歴史に関する基礎知識を得られるので、教養を身につけるといふ意図にかなっていると思う。

語学などのクラス指定科目と時間が重なっているために履修できないものが多いことが残念です。(法学部 1 回生)

047

とろうと思っていた授業が重なっていることが多くとても困っている。(農学部 1 回生)

082

理系に対しての A 群科目の負担が、文系に対しての B 群科目の負担より大き過ぎると思う。理系はクラス指定で時間割が埋まってしまうために、本当に自分の取りたい A 群がそれらとかぶってしまうことが多く、興味のない A 群を無理矢理入れているというのが実状だからだ。(理学部 1 回生)

119

指定科目が多く、空きコマに興味のある授業がなかったりして、仕方なく取った授業を熱意を持って受けれるかは問題である。第 2 学年からは専門科目も入ってきてしまうし、取りたくないものを取らなければならない状況になっているのをどうにかすべき。(理学部 1 回生)

141

個人的には時間割の都合でとりきれなくてくやしいものも多い。(総合人間学部 1 回生)

173

自分の興味よりも簡単に単位が取れる講義を優先する場合もあり、これは自主的に学ぶことを必要とする大学においては問題であると思う。(工学部 1 回生)

205

専門科目と全学共通科目が重なっていることが多く、そのため、受講人数が多すぎて困る。(総合人間学部2回生)

212

自分の取りたかった A 群科目(芸術系)が語学などとすべて重なっていて取れなくてくやしかった。(理学部1回生)

### 3 理系にA群科目は不要？（12）

理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている。（理学部1回生）

このことについて書く学生によれば、理系学生の大半は、A群科目の履修を卒業に必要な単位をそろえるためとだけ考えている（119「特に理系の生徒がA群のために、大学での勉強意欲がなくなった人も多いはず」あるいは134「理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている」）。彼らはどのように授業を改善したところで、一切やる気を示さない（096「理系の友達などに聞くと、A群科目にはほとんど魅力を感じないそうです」）。上述した専門科目の1回生開始とあいまって、なぜA群などという専門に無関係なことをしなくてはならないのか、と考えているようである。ほんとうにA群科目を卒業に必要な単位とすべきかどうか考えなおすべきだ、というのが彼らの意見だ（021「理系の人にA群科目を義務づける必要はないと思う」、024「結局、自分の興味のある授業だけを取ればいいのだから理系でA群を必須にするのはどうかと思う」）。その一方で理系学生のA群科目受講は大切と書く者もいることを忘れてはならないだろう（165「視野を広げるためにも、理系の人達にも必要だと思う」、168「理系にはA群はいらないのでは？という人もいるが、私としては幅広い教養を身につけるという点でA群は必要だと思う」）。

007

A群のうちで興味をもてるのは数こしかない気がします。時間がかぶって、とれないものもありますし、実際興味があるものの中でとれるのは少ししかありません。

興味のあまりないものを取り、あまりでない人がいるので、もう少し必要な単位を減らせば良いと思います。減らす代わりにすべてを同じ難しさぐらいにしてやれば、みんな興味あるものばかりを取り、もっと熱心にやると思います。（農学部1回生）

021

それと理系の人に A 群科目を義務づける必要はないと思う。

義務づけてなくても興味があるものなら、理系でも A 群授業に出る。(農学部 1 回生)

024

結局、自分の興味のある授業だけを取ればいいのだから理系で A 群を必須にするのはどうかと思う。取りたい人は、必須じゃなくても好きなものを取るだろうし、取りたくない人は、自分の興味のある B 群やサークルなどに時間を割けていいと思う。人それぞれ、そうなりたい、という人間の理想像は異なっていて当然なのだから。例えば、数学のスペシャリストになりたいと思う人に歴史をとらせたら、それはその人にとって何の価値もないものになるのではないだろうか。(薬学部 1 回生)

028

私は文学部なので A 群科目にはわりと興味もてるが「理系」の人達は「A 群が足りない～」と言って困っている。私も B 群にはあまり興味もてない(もてるのもあるが)。

卒業単位の「うち A:B 群が 単位以上」というのはやめたほうがいいと思う。

「偏る！」と言うかもしれないがその方が自分の興味のあるものを集中して勉強できると思う。(文学部 1 回生)

082

理系に対しての A 群科目の負担が、文系に対しての B 群科目の負担より大き過ぎると思う。(理学部 1 回生)

096

A 群科目に限らず、全学共通科目は、みんな単位をとるためにとっている傾向があると思います。かくいう私も受講している授業がほとんどそのためのものです。でもそれはもったいないことだなと感じるようになりました。全学共通科目でも、かなり有名な先生方が教えてられるのに、その事実を知っている人はほとんどいません。私も人に聞いて初めて知ったのですが、そのことを知らずにぼんやり聞き過ごしてしまうと、得るものはきっと半分以下だと思います。だからそれぞれの授業を担当されている先生方の

紹介冊子かなにかを作ってほしいです。

それと私は文系だからか、A 群科目で興味があるものはたくさんありますが、理系の友達などに聞くと、A 群科目にはほとんど魅力を感じないそうです。だから全く専門の違う人でも興味をもつような授業にしてほしいです。(経済学部 1 回生)

119

一般教養を A～D に分けることをせず、全てをまとめて、卒業単位認定してもらいたい。特に理系の生徒が A 群のために、大学での勉強意欲がなくなった人も多いはず。京大を世界に目立たすために自主性にまかしているはずであるが、実際、かなりの期待がある。最近、京大の批判が多く聞かれるが、原因は、やる気のある生徒に対する一般教養のあり方があるように思われる。(理学部 1 回生)

134

表にも書いたが、理系の学生にとって A 群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている。文系であっても、興味を引けなければ出席率は下がる。別にそれは構わないと思うし、単位認定を厳しくしたところでしかたがないだろう。ただ、真面目に受講している人とそうでない人の間の公平性は保たれるべきだと思う。単位の出やすさ、出にくさ、というのは真面目にやっている人にとっては関係ないとしても、「そこそこ真面目」な人のモチベーションには大きく影響する。まがいなりにも「教育」を目的とするならば、この層をないがしろにしては良い効果はあげられない、と思うがどうか。同じことは A 群に限らず他の科目についても言える。こんなことは既に議論され尽くしていて、今更こんなことを言っても役には立たないだろう。(理学部 1 回生)

140

私は理系なので、A 群科目が将来の専門に深く関わってくる可能性は低いですが、自分の専門でないことも広く学べるのでよいと思う。(農学部 1 回生)

165

表にも書いたように、視野を広げるためにも、理系の人達にも必要だと思う。(工学部 1 回生)

168

理系には A 群はいらないのでは？という人もいるが、私としては幅広い教養を身につけるといって A 群は必要だと思う。今のままでうまくいってるような気がします……。(工学部 1 回生)

238

理科系の人にとって、A 群科目は本当に単位を取りにくいです。たくさんの授業は、ちゃんと出て、まじめにノートを取っても、単位を取れないみたいです。(工学部 1 回生)

190

理系なので A 群の指定がなく、自分の興味を持てる講義を自由にとることができるのが良いと思う。(薬学部 1 回生)

#### 4 履修制限（10）

まじめに取りたかったのに、楽勝というウワサだからという理由で皆が受けたがり、抽選で落ちてしまったのに、その授業の出席者が少ないと聞くと、悲しくなります。（教育学部1回生）

履修制限についての意見で目立ったのは、履修制限のために自分が本当に受けたいと思っていた科目の受講が不可能になってしまった、という意見である（上掲の回答のほか094「人数制限のある授業で、まともに受講する気のない人が授業をとって、受講する気のある人がとれないのはおかしい」あるいは169「時々履修制限があって自分のとりたい科目がとれない場合があるのが残念」）。だから履修制限には反対と彼らはいう。真の受講動機をもつ学生がはじかれる一方、受講動機をまったく持たない学生が、くじ引きであたったと言うだけでその科目を履修し、しかも授業にはまったく出ていない。これは不合理ではないか、というのである。

他方、やる気のない学生を抱えて満員のまま授業を続けるくらいなら、いっそ受講者を制限して良好な環境のもとで授業を行ったらどうかと考える学生もいる（177 履修人数制限を設ける必要がある。いくつかの講義は飽和状態にある。）。どちらも聴く意欲のある学生が授業に参加することが授業の要件だという点では同じである。

088

まじめに取りたかったのに、楽勝というウワサだからという理由で皆が受けたがり、抽選で落ちてしまったのに、その授業の出席者が少ないと聞くと、悲しくなります。（教育学部1回生）

094

人数制限のある授業で、まともに受講する気のない人が授業をとって、受講する気のある人がとれないのはおかしい。（工学部1回生）

101

すでに3回生で1コしかとってないのですが…。1回生の頃は、通年が多く、後期1発テストが多かったのですが、最近はセメスター制で大変になったとか…。受講者制限はいただけないな、と思います。(教育学部3回生)

126

受講制限をすることは、できるだけ避けてほしい。ポケゼミは仕方がないが、教室の収容人数で制限することはあまり良くない。登録をしてから、1、2ヶ月すると講義を受ける人が減るからだ。余っている座席があるなら、受講制限で受けられなかった人を受けさせたほうがよいと思う。(工学部1回生)

154

受講者制限は廃止した方がよいと思う。なぜなら前期の授業も6月に入ると、教室にいる学生の数は4月時に比べ激減するからだ。激減するということは教室にスペースが空くということだが、4月時点で勉強意欲のある学生が不運にも受講禁止され、それ以後その空いたスペースに座れないという事態が発生する。これは自由な学風を掲げる京都大学にとってマイナスになるのではないかと考える。(法学部1回生)

167

受講希望者の多い授業の多くでは人数制限が行われるが、そのような授業にかぎって単位だけが目的の人が多く、やる気のある学生が授業を受けられなくなっている。やる気のある学生を優先的に選ぶことはできないのでしょうか。(工学部1回生)

169

時々履修制限があって自分のとりたい科目がとれない場合があるのが残念。人気のある科目は広い教室で授業をしていただきたいです。(着席できない授業もあるので)(工学部1回生)

177

履修人数制限を設ける必要がある。いくつかの講義は飽和状態にある。だが、その方法は単純な抽選であるべきではない。レポートによる選抜、あるいは前年度までのGPAによる選抜が、より好ましい。(総合人間学部4回生)



## 5 授業の環境・雰囲気 ( 18 )

人気の A 群科目にありがちなことなのですが、受講者の人数に対して教室が狭すぎることです。(理学部 1 回生)

受講者が教室定員をはるかに上回るような授業をどうにかしてほしい、という意見が多い(上掲の回答のほか 073「受けたい授業に人が集まりすぎる」など)。そのほか「単位その他の強制からではなく、聴きたい学生が聴く」という授業のあり方が望ましい、したがって出席を厳しくチェックするなどというのは、もってのほかという意見もある(085「かといって、例えば出席をとったりする方式にするのは絶対に避けるべきだと考えます。それは授業全体の質を低めることになってしまいます」、あるいは 228「出席を取ったり、授業中の小レポートを課すことによって、他人の聴講の邪魔になる存在を教室に集めることはやめてほしい」)。

013

大人数が多く、居眠りなどが多いと意欲をそがれる。(総合人間学部 2 回生)

021

多少、満杯気味の教室もあるので、本当に授業を聞きたい人が聞きにくくなるのでは。(農学部 1 回生)

033

もっと大きな教室を用意してほしい。いつもすわれない。(理学部 1 回生)

047

教室の広さに比べて人数が合っていない授業がある。

とろうと思っていた授業重なっていることが多くとても困っている。(農学部1回生)

055

授業では、生徒が授業を聞く態度をとっていない場合、その生徒を追い出してもいいから、先生は生徒に聞こえる声で、きれいな字で講義すべきだ。(工学部1回生)

059

人気のA群科目にありがちなことなのですが、受講者の人数に対して教室が狭すぎることです。立ち見の人が続出していて、授業をまともに受けられないどころか90分間立ちっぱなしというのははっきり言って苦痛なので人数制限をするか教室をもっと広い所に割り当てるなど対処して欲しいです。(理学部1回生)

073

受けたい授業に人が集まりすぎる。本当に興味を持って受講できる人だけが来るような授業内容の告知をはじめにして欲しいです。最初は不安でいっぱいなので抽選の仕方をも統一してもっとわかりやすくして欲しいです。(法学部1回生)

085

かといって、例えば出席をとったりする方式にするのは絶対に避けるべきだと考えます。それは授業全体の質を低めることになってしまいます。今の状態は、出席しなくても単位は取れる状態だからこそ、授業には講義を聴きたい人が多くを占める状態なのです。もしも「単位が欲しいだけ」の人まで強制的に授業に参加させれば、私語や飲食が増えて授業どころではなくなるでしょう(他大学ではすでにこの状態です)。(理学部1回生)

110

講義室の広さと受講人数があっていない。字が薄かったり小さかったりして後ろのほうの席では全く読めない。マイクを使ってもボソボソ話して何を言っているのか聞きとりづらい教官もいる。(文学部1回生)

195

まず1クラス何百人とかのマンモス授業は即刻中止すべきだ。少なくとも何か対策をとるべきだ。教室の定員の何倍もの学生に登録を許可していることは問題であり、学生が授業に出ないことを前提にしているかのようだ。(工学部2回生)

205

専門科目と全学共通科目が重なっていることが多く、そのため、受講人数が多すぎて困る。(総合人間学部2回生)

217

必要な数の単位を取得するためだけに、多くの授業を取り、時間割上全く興味のない科目まで履修するのは無駄な気がする。各授業を最低週2コマずつくらいにし、ある程度興味のある分野に的を絞ってより深く勉強出来る方が、学生のヤル気も出る上、学生が熱心な分先生も教え易くなるのではないかと思う。(法学部1回生)

228

A 群科目の授業全体についても、表に書いた内容とほぼ同じようなことになります。単位認定の難易については各教官の方針があるでしょうから、ここでは書きません。ただ、出席を取ったり、授業中の小レポートを課すことによって、他人の聴講の邪魔になる存在を教室に集めることはやめてほしい。大学の授業であるから、その内容に興味を持ち、聴講したい人のみが授業に出ればいいのだと思う。(教育学部3回生)

## 6 授業の内容が難しい(17)

無知なる学生に対して、何かを教えているのだという意識が、どうも希薄に感じられてならない。(文学部1回生)

高校時代にその系列の科目をとっていない学生、あるいは将来その科目を自分の専門としない学生がいることを十分知っているのに、講義の内容が高度にすぎたりするのは不親切だ、という回答が目立つ(上掲037ほか177「入門用の講義ならば、入門用に講義内容を構想すべきだ」)。学生の理解度に対して鋭敏な感受性をもたぬ教官に対しては、学生の評価はかなり厳しい(045「「～学基礎論」と題しておきながら、何故ほんの微細な自分の専門を説くだけなのか」、あるいは177「\*\*学基礎論、と銘打っておきながら、実際には自分の狭く限定的な専門領域を稀釈しただけの講義内容を垂れ流して恥じない教授が多すぎる」)。

037

表面にも書いたとおりだが、やはり、無知なる学生に対して、何かを教えているのだという意識が、どうも希薄に感じられてならない。大学生活のすごし方を説く通俗書籍に、教授を見限れ、などと書かれるのも尤も、と思えてならない。私たちは確かに天下の京大生かもしれないが、もはや現在の高等教育では、どんなにレベルの高い学生だろうと、手持ちの知識は画一的に、高校の教科書レベルのものに過ぎない。それ以外の分野に手を伸ばすことは、気力的にも、時間的にも厳しいものがあると思う。ましてや、難関京大のことである、ほとんどの学生は、すべての時間を、一律の受験勉強に費やしてきたことだろう。そんな我々に、過度に高度な、専門的な講義を、入学と同時に行うのは勘違い甚だしいと思う。教授陣には別段、高等であるという意識はないのかもしれないが、しかし、もう少し丁寧に、詳しく説明してくれなければ、理解の域に達するものは何もない。これは、私だけが凡人である、という事実起因するものではないと信じたい。もしそうなら、わからんわからんと、まじないを唱えるかのごとく繰り返す者や、授業開始早々に眠ってしまう者がいる、という事実を、論理的に説明しがたくなる。今

一度、学生の立場に立って、講義を組み立ててもらいたいものである。この、学生による授業評価依頼のチラシに打ち出している。「教育理念に即してよい授業を提供しようという共通の志」という文句を見た際の、失笑を禁じえない、という事態が再び起こらないよう、いっそうの創意工夫と努力を、諸教授方をお願いしたいものである。(文学部1回生)

045

次に、教える内容である。「～学基礎論」と題しておきながら、何故ほんの微細な自分の専門を説くだけなのか。一般教養は学問の全体像を描かせるためのものではないだろうか。正直現在のような講義では何のために一般教養を学ぶのか分からない。今後専門に進んだ時、どのように役立つのかわからない。(経済学部1回生)

129

アメリカの歴史を知っておきたいと思い受講をしていますが、奴隷制など年代を追って説明して下さるので、わかりやすいです。しかし、もう少し、世界史を勉強しなかった(僕のような)人もいることを考えた、ゆっくりした授業をしてほしいと思います。けど楽しいです。(経済学部1回生)

177

\*\*学基礎論、と銘打っておきながら、実際には自分の狭く限定的な専門領域を稀釈しただけの講義内容を垂れ流して恥じない教授が多すぎる。自分の研究領域と、学生に対する教育とを、どうして分けて考えることができないのか。入門用の講義ならば、入門用に講義内容を構想するべきだ。その任を怠って自分の知悉する範囲のみの知識を披瀝しては、学生はうんざりしてしまう。(総合人間学部4回生)

185

B群は「微積」「線型」といった専門基礎的なもの(理系向とかかかっているもの)と「人間と数学」「化学概論」といった教養的なもの(文系向とかかかっているもの)があるのに対し、A群はそういうのがなく、文系と理系が同じ授業を受けるのはおかしい。理系向の教程度A群と文系向の専門基礎的なA群とつくってほしい。もしくは明文化してほしい。理学部に文学部と同じレベルの西洋史はつらいが、西洋史はやりたいと

思っている。(理学部1回生)

192

あまり一般教養という感じがしないものがある。一応教養的な話も織り交ぜながらして頂きたい。(農学部1回生)

210

どうも距離感を感じてしまうけれど、高校とは違って、もっと深い分野をやれていい。特に人類学は今までにないことをしている感じで、少し興味が出始めてきたかも…。ただやはり距離感を感じてしまうのは未だになおらない。もっと理系でも楽しめるような、参加したくなるような授業をしてほしい。(農学部1回生)

## 7 授業の仕方に工夫が必要(37)

正直、受けて損をしたと思った科目がある。理由はつまらないからだ。教え方が下手、熱心に教えていないことに原因があると思う。(法学部1回生)

学生に対して何かを伝えようとする意思の感じられない授業に対しては、評価が低い。「一人でぶつくさ言っているだけ」(041)、「わかりやすさを考えて授業していない」(062)、「誰にも伝えようとしていない」ように見える」(065)、「講義のやり方がひとりよがり」(143)などと酷評が続く。

041

教官が、「学生に対して授業をしている」という姿勢に欠けていることがしばしばあり、一人でぶつくさ言っているだけだったり、自分しか持っていない本についてコピーも配らずにずっと解説しているというのは不親切だし、教官としての義務を果たしていないと思う。(総合人間学部1回生)

045

まず A 群科目に限ったことではないのだが、教官の教育能力が非常に乏しい。どのように講義を展開すれば学生は理解しやすいかという問題意識がそもそもないのではないか。今話していることは全体の中のこの部分に位置づけられる内容だな、と理解できる講義は少なく、単に箇条書き的に話を進めるだけ、という講義が多い。(経済学部1回生)

053

大体の教官から自らの専門分野に対する熱意は感じられるが、その熱意が学生に対する教育意欲として表れているか、という点は人それぞれだと思う。残念ながら「教官が好きなように講義をしても大多数の学生が食いついて必死に理解する」という状況はこ

の大学でも望めないと思う。(勿論、これは学生の質の問題である。また A 群科目に限ることではない。)

内容を学生に伝えるという面も多少考慮してもらえれば、よりよい授業が作れるのではないか。(法学部 1 回生)

062

幅広い分野の授業が受けられて楽しい。ただ、先生によっては自分の世界に入ってしまうようで、学生には話の内容がつかめないものがある。わかりやすさを考えて授業していないのではないか。(法学部 1 回生)

065

「生徒に講義内容を伝える」というより「誰にも伝えようとしていない」ように見える先生がおられます。(工学部 1 回生)

092

生徒がポツポツと同時に寝はじめるのは、その授業内容・形式がつまらない、ということの意味しているので、くり返さないでほしい。京大の学生はおとなしいから何も言わないけれど、言えない分寝ます。レジュメに書いてあることに興味があるから出席しているのに、脱線したり、全く違うことを話すのは本当にやめてほしい。毎回プリントが足りなくなるのも問題だと思う。(文学部 2 回生)

100

正直、受けて損をしたと思った科目がある。理由はつまらないからだ。教え方が下手、熱心に教えていないことに原因があると思う。教官の研究を優先したいという気持ちもわからないではないが、教えられる側のことも考えてほしい。(法学部 1 回生)

101

A 群の先生は、おもしろくわかりやすい人と、自分の世界に生きていてよくわからない人の両極端な気がします。それはそれで学問的ムードが味わえていい気もしますが、もうちょっと「授業をする」ことを考えてもいいのではないかと思う先生も、いました。(教育学部 3 回生)



143

大学の教官は学者・研究者なので、しかたないことだと思うが、講義のやり方がひとりよがりなような気がする。“教師”という職業ではないので“教える”ということに熱心になれないのも当然ではあるけれど、少しさみしいような気分がする。(法学部1回生)

148

また、少し不満を言わせてもらいますと、これらはA群科目に限らず全般に言えることなのですが、テキストをただ読み進めるだけの授業はたいていつまらないものが多いです。「教員の熱意」が見られないためでしょうか。他に、話が突然飛ぶなどの授業進行があやふやな講義は聴いていて理解に苦しみます。こういう場合はただの学生側の力不足ではないように思えますので。(工学部2回生)

155

説明が下手な先生が案外多くいる。ただ文章を読むだけだったり、ボソボソしゃべるだけではつまらない。そうなる生徒は寝たり欠席したりする。適度に板書をしたりプリントを配布し、わかりやすく講義をしてほしい。また生徒の興味をひきつけられる講義をしてほしい。例えば身近な例を用いたり、おもしろい話とかでその分野で学生が勉強する意思を持たせるようにすればいいと思う。(総合人間学部1回生)

192

多様なので全体として言うことはできないが、人数の多い授業の場合、席によって受ける授業の質が大きく変わってしまうことがあるのが困る。(声が聞こえない、字がみづらい、レジュメがこない、熱心でない人が周りにいて迷惑である、等)

教材の扱いなどはトラブルがないようにしてほしい。

人の顔を見て話をしない教官の話はとても聞きづらい。

単に教える内容を述べるだけではなく、その分野の雰囲気、魅力を紹介するような授業であってほしいと思う。それは積極的なアピールをしてもよいのではないだろうか。どうせ専攻じゃないから、般教だからというのは困る。(農学部1回生)

## 8 マイクなどの設備とその使用法(10)

マイクを使わなかったり、マイクの調子が悪かったりで、後ろの方に座ると聞こえないこと多々あり。(法学部1回生)

マイクの設備や使用法に対する不満を述べる回答がかなりある。マイクの設備がよくないためか、あるいはマイクの使い方に手間取るのが面倒なためか、「大きい教室でもマイクを使わないで講義をされる先生がほとんど」(190)らしい。「マイクの使い方とかを先生にちゃんと教えてあげないといけないと思う」(132)といった率直な感想もある。とくにD、E号館の大教室におけるマイクの設備が十分でないようだ。また「クーラーのききすぎ、マイクが途中で切れるなどの不備に対して敏感に対応してほしい」(006)というような設備の保守・管理についての指摘もあった。

006

クーラーのききすぎ、マイクが途中で切れるなどの不備に対して敏感に対応してほしい。

眠たくなる授業は改善してほしい。(農学部1回生)

099

マイクを使わなかったり、マイクの調子が悪かったりで、後ろの方に座ると聞こえないこと多々あり。前に座るために早く行かないといけなくなってしまう。(法学部1回生)

130

マイクが使えない人が多い。レポート試験が多くて難しい。(法学部1回生)

132

マイクの使い方とかを先生にちゃんと教えてあげないといけないと思う。よくわからずにマイクをあきらめて、地声で講義するが、それではよく聞きとれないところがある。  
(法学部 1 回生)

190

大きい教室でもマイクを使わないで講義をされる先生がほとんどなので声が聞き取りにくい。(薬学部 1 回生)

199 .

授業に割りあてられた教室の設備をどう使うのか、各先生方にきちんと連絡を行き渡らせておいて欲しい。(教育学部 1 回生)

## 9 肯定的評価の明示 ( 4 6 )

A 群の授業は全体的に B 群よりもおもしろくて (私は工学部) この調査用紙いただいた時、やっぱりさすが A 群はすごいと思いました。(工学部 1 回生)

A 群科目について肯定的評価、否定的評価 (次項) を明示的に書いてあるものを集めてみると、やはり肯定的評価の方が回答数が多く、内容も豊富である。「A 群はすごい」(074)「A 群科目はバリエーションが豊かで、どの授業もとても面白い」(081)「全体的に話の内容が充実」(174)「話に興行きがあるので、「さすがプロ！」とか思ったり」(230) といったストレートな感想も目につく。自ら進んで回答をしてきた学生ということを考えると、当然の結果かもしれない。前述のように、A 群科目は多様であり学生も多様であるのだから、こういう回答を見て手放して喜ぶというわけにはいかないだろう。

072

種類も豊富で多岐にわたっているので自分の興味あることが自由にとれるので十分であると思う。(理学部 1 回生)

074

A 群の授業は全体的に B 群よりもおもしろくて (私は工学部) この調査用紙いただいた時、やっぱりさすが A 群はすごいと思いました。(工学部 1 回生)

081

私は文系で、理数系の学問はまったく苦手なので、A 群科目をたくさん取っているのですが、A 群科目はバリエーションが豊かで、どの授業もとても面白いです。なので特に不満はありません。このような授業を来年も続けていただきたいと思います。(文学部 1 回生)

111

「一般教養は教官が手を抜いている」などと耳にする時もありますが、私自身はそうは感じません。むしろ、ある程度良質の授業を与えられているにもかかわらず、熱意を見せない京大生が多い事が問題なので、例えば教育や社会の現状に対する具体的な方策を学生に考えさせる授業などを、より多く設けてほしいです。(文学部1回生)

122

今まで自分では気にもしなかったことに対して、授業を受けていくうちに、興味がわいてきて、辞典で調べたり、実際にその場所に行ったこともあり、視野が広がる思いがする。(農学部1回生)

128

もっと難解でわかりにくくて専門的な科目ばかりかと思っていたので、とっつきやすいものもあったことに安心した。シラバスの内容もわかりやすく授業を選ぶ際の指針にしてよかった。(誤りがない)(法学部1回生)

135

A群科目に限らず、課題をだす授業がいくつかあるけど、自分のしたい勉強(英語のヒアリングが僕はしたい。)をする時間がへるから、やめてほしい。授業での話をちゃんと聞くから、かわりに課題をなくして、好きなことが勉強できる、というのが、僕にとってはベストです。授業の内容は、僕は自分の興味のある分野しかとっていないので(それがいいかどうかは別ですけど)、授業はおもしろい。(工学部1回生)

169

授業科目はバラエティに富んでいて興味もてるものが多いのでこれからも面白い、ためになる授業を期待したい。(工学部1回生)

174

全体的に話の内容が充実しており、興味・関心をもって聞けるものとなっていて良いと思います。休講も全体的に少なく、先生の熱心さが伝わるものとなっていると感じま

した。(経済学部 1 回生)

196

(僕自身もそれほど期待していない)熱意の感じられない教官は思っていたほどいない。そういう点では評価できる。(総合人間学部 1 回生)

223

授業によって熱心さにはばらつきがあり、中には、教官が一人でしゃべっているだけの授業もあった。しかし、全体的には、B 群科目より真面目な授業が多かった。(経済学部 1 回生)

230

「大学の教授なんて頭でっかちなだけで教えるなんてへたくそに決まっている」と思っていたが、どの先生も面白いし、学生にわかりやすい授業をしてくれている気がします。話に奥行きがあるので、「さすがプロ!」とか思ったりしますね!(法学部 1 回生)

## 10 否定的評価の明示(14)

退屈な話が多いのは事実です。また、講義に関する学問のほんの一部を妙にくわしくやる感じで、体系的に理解できるものはほとんどないです。(教育学部1回生)

「授業内容が高度すぎる」(076)とか「取得しなければならない単位数が多い」(同)といった指摘についてはすでに取り上げた。この項目に限らず、今回の調査においては、感情的な内容の回答はほとんどなかったが、若干の例外はあった。そのうちの一つを参考までに提示しておきたい(118)。

076

A 群科目の持つ問題点を挙げてみたい。

1. 学生にとって興味が持てる科目が少ない。「興味が持てない」ことにはやはり理由というものがある。前期が終わりに近づくうちに気付いたのは、「授業内容が高度すぎる」ということである。これが興味を引き出すことのできない理由である。なにも高校のように程度の低い授業をすべき、ということでは決してない。しかし、講義のレベルが学生のレベルより高すぎると、授業は成立しがたい、ということだ。

2.(1.にもかかわらず)取得しなければならない単位数が多い。興味の持てない科目を単位取得のために勉強することは苦痛である。その苦痛を強いることは、京都大学の自由の学風に反していると思わざるをえない。大学に入ってから勉強とは自身が自分から進んでするものであるから、取得すべき単位数は減らしてしまってもよい、むしろ減らすべきである。そうすることで、学生なりの実力の養成が可能になると思う。(農学部1回生)

087

あんまり意味がなく、時間の無駄であるからやめるべきである。(農学部1回生)

095

これはおもしろい、と感じる授業が少ない。もともと興味をもっていた分野以外の分野の A 群科目の授業で、90 分が辛くないのはせいぜい 1 つか 2 つだ。一般教養科目が卒業に必要な単位という状況は改善すべきだと思う。たしかに教養はあるべきものだと思うが、どうせ現状は登録のみして授業には出ず、テスト前だけ試験対策をして、単位だけもらうという無為なものなので、教養を身に付けるという名目は、形骸化している。それならいっそ、一般教の単位を取らなくてもよいものにしてしまい、その時間を他の学習にあてられるようにすべきだ。どうせ遊ぶだけだ、というかもしれないが、そういうふうにひたすら遊ぶだけの人間は、単位を課したところで、やはり授業をサボってテストだけうまく立ち回り、結局遊ぶに違いない。興味もないのに授業に出て、「90 分中 75 分は寝ました」みたいなことになるくらいなら、その時間に 1 冊の文庫文を読んだ本がよほど実になると思う。(文学部 1 回生)

118

『おもしろくない』の一言。どの授業も沈んでて暗い。散々「授業における対話」を言うてきた京大、実例を見たことない。あ、一個だけあるわ、教授と黒板の対話。学生は発言するチャンスすらない。そもそも内容がおもしろくないから発言しようとも思えへん。毎回アホみたいにボーッと座って、なんも頭使わんままに帰る。もうそろそろ脳ミソ腐りそうや。全然知識を吸収した気イセーへん。教育改革は京大 A 群より始めるべし。(廃止してもええで)(工学部 1 回生)

211

退屈な話が多いのは事実です。また、講義に関する学問のほんの一部を妙にくわしくやる感じで、体系的に理解できるものはほとんどないです。大学の授業はもともとそういうものだと思いますが、“一般教養”なのだから、もう少し全体の概論までよくわかるような、その学問の考え方とか基本がもっとわかるような授業をもっとしてほしい。(教育学部 1 回生)



## 1 1 その他\*

### ( 1 ) 学生の質が問題 ( 8 )

多くの学生が、単に単位を取るための科目としてしか捉えていないのが現状です。(理学部 1 回生)

今回の調査は、「日頃考えていることを自由に書いてもらう」ということを求めたのだが、「正直な話、大部分の学生は何も考えていない」(085)との指摘があった。たしかにそのような側面は無視できないだろう。

014

A 群科目については、学生全体(特に理系学生)でやる気がない(一部除く)のは教官達も、自らの経験もまじえてよくわかってる筈。試験、レポートといった小細工はせず、登録したら素直に単位を出すべきだと思う。(まあ、優・良・可の評定をつけるためだけに行うのは大いに結構だが)(農学部 1 回生)

053

残念ながら「教官が好きなように講義をしても大多数の学生が食いついて必死に理解する」という状況はこの大学でも望めないと思う。(勿論、これは学生の質の問題である。また A 群科目に限ることではない。)(法学部 1 回生)

085

「学生諸君が日頃考えていることを自由に書いてもらう事が有益であると判断した」とありましたが、正直な話、大部分の学生は何も考えていないはず。アンケートというのはそもそも「考えている」学生に対してしか有効ではありません。仮に回収率が

---

\* 回答数が 10 に満たないものを「その他」として括った。

3割とすると、残りの7割は「何も考えていない」学生と見てかまわないはずですが、それが“ 答え ”と見ることもできるかもしれません。多くの学生が、単に単位を取るための科目としてしか捉えていないのが現状です。(理学部1回生)

(2) 出席について(6)

出席を取ったり、授業中の小レポートを課すことによって、他人の聴講の邪魔になる存在を教室に集めることはやめてほしい。(教育学部3回生)

出席については、チェックが厳格になればなるほど授業のクオリティが低下する、だから厳格化はやめてほしい、という上掲の回答(228)のような指摘が目立った。出欠厳格化への嫌悪が、怠惰への志向からではなく、その逆の志向から出てきていることに注目すべきだろう。むろん「出席に重点を置いてほしい」(080)という意見もある。

080

教科書を買えば、出席しなくてもよいものが多い。出席に重点を置いてほしい。京大には相応しくないことだが。(経済学部1回生)

085

かといって、例えば出席をとったりする方式にするのは絶対に避けるべきだと考えます。それは授業全体の質を低めることになってしまいます。今の状態は、出席しなくても単位は取れる状態だからこそ、授業には講義を聴きたい人が多くを占める状態なのです。もしも「単位が欲しいだけ」の人まで強制的に授業に参加させれば、私語や飲食が増えて授業どころではなくなるでしょう(他大学ではすでにこの状態です)。(理学部1回生)

106

全体的に、つまらない講義ほど出席&平常評価がきびしい傾向がある気がする。面白い講義で出席をとると時間が減る上に教室が狭くなるからというが、実際出席強化は真面目に出る人間からも出ない人間からも迷惑。教室の席は足りなくなる自転車は混んで止められない、という状況が年々悪化中。セメスターはまだしも、無駄な出席強化策はやめていただけませんか。京大らしく、興味と熱意のある人が好きに勉強できる環境があれば良いのでは？授業のクオリティ向上は望むところ。ただしこれは教官側個々の問題か。(文学部3回生)

134

表にも書いたが、理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている。文系であっても、興味を引けなければ出席率は下がる。別にそれは構わないと思うし、単位認定を厳しくしたところでしかたがないだろう。ただ、真面目に受講している人とそうでない人の間の公平性は保たれるべきだと思う。単位の出やすさ、出にくさ、というのは真面目にやっている人にとっては関係ないとしても、「そこそこ真面目」な人のモチベーションには大きく影響する。まがいなりにも「教育」を目的とするならば、この層をないがしろにしては良い効果はあげられない、と思うがどうか。同じことはA群に限らず他の科目についても言える。こんなことは既に議論され尽くしていて、今更こんなことを言っても役には立たないだろうが。(理学部1回生)

228

ただ、出席を取ったり、授業中の小レポートを課すことによって、他人の聴講の邪魔になる存在を教室に集めることはやめてほしい。大学の授業であるから、その内容に興味を持ち、聴講したい人のみが授業に出れば良いのだと思う。(教育学部3回生)

(3) 単位の認定について(5)

013

成績評価は授業の理解や出席よりも文章作成能力に依存するため、あまりあてにならない。(総合人間学部2回生)

114

集中して講義を聞けば、ほとんどの授業に関しては多くのことを学ぶことは可能だと思う。評価が甘すぎると感じることもあるが、学生が自由に学ぶためにも今の水準で良いと思う。(文学部3回生)

137

教員にひとつ望むとすれば、客観的に見て内容が薄いというか、授業のために教員の努力があまり払われていないと感じられる授業なのに教員が出席や単位にこだわるのはおかしいので、どちらかにしてほしいということ。つまり授業にやる気がないのなら単位も与えればいいんじゃないかと思う。(法学部1回生)

232

無理のあるレポート課題が多い。そもそも専門家でもないパンキョーとして受講している学生がレポートなど書けるはずがないからだ。結局本や Web の記述をまる写しになることが無いように課題の出し方をもっと工夫せよ。今のままなら、知識つめ込みの筆記試験の方が目的が明確であるという点でまだ合理的だ。(理学部2回生)

#### (4) 教官の遅刻(4)

160

授業内容以前に授業開始があまりに遅いのも問題である。5分ぐらいの遅刻なら学生もほとんど気にしないが、15分以上も遅刻された上に、平然と講義時間を5分以上超過されると、学生の方はたまったものではない。定刻通りに始め、定刻通りに終われなどと言うつもりはないが、もう少し改善してほしい。(法学部1回生)

170

始業時間に遅れた分、授業時間を延長している教官がいるが、休み時間が短いうえ次の授業場所への移動時間がかかること等考えるとこのような行為は迷惑である。改善をお願いしたい。(理学部1回生)

( 5 ) 板書について ( 4 )

241

丁寧な板書を書く先生が少ないのも、わかりにくい原因であると思う。生徒は板書だけを頼りにして授業を理解する傾向があるので、板書をきれいに書くと理解できる生徒が増えるのではないかと思う。( 農学部 1 回生 )

( 6 ) その他

055

楽しい授業とそうでない授業に差がありすぎるように思う。

シラバスで自分の興味のある授業を選んだつもりでも、シラバスに書いてある内容と異なることをやるのは反則だ。せめて書いたことに責任をもってちゃんとしてほしいし、もっと詳しく授業内容を書いてほしい。( 工学部 1 回生 )

160

入学したばかりの新生にとって、A 群科目は他群よりも内容が分かりにくいものが多いと思う。特に、高校までに学んだ科目と直接関連していない分野や哲学系の授業は、シラバスを見てもあまり内容がわかりにくいので、履修登録の際に非常に困った。もう少しわかりやすく書いて頂くとありがたいと思う。( 法学部 1 回生 )

021

90 分の授業は長くてなかなか最後まで集中力が続かないので 5 分程の短い休憩 ( 息抜き? ) を入れて欲しい。( 農学部 1 回生 )

065

余談だが、頼るべき学生課 [ ? ] の人をはじめとして事務の人は愛想が悪い。税金でやとわれているはずなのに…。昼休みに開いていないと、講義を多くとっている生徒程不利になる。変だと思う。( 工学部 1 回生 )

## まとめ

### 回答内容から得られたこと

以上でA群科目全体に関する回答内容の分類・読解の作業を終えたい。今後の授業改善の可能性を考慮しながら、得られた知見を箇条書きにしてまとめてみよう。

A群科目が非常に多様であることが改めて確認されたこと。多様さの内容も難易度、授業の仕方、熱意などの多くの項目にわたっている。そしてそのどれにより敏感に反応するかについて、学生側の態度も多様であるようだ。A群科目をわかりにくさの極致と考える学生がいる一方で、A群科目はばか丁寧すぎて進度も遅くてたまらなく退屈と考える学生もいる。したがって一様な授業改善策を立てるのは、なかなか難しい。多様性が特徴なのだから、その多様性を殺さない改善が大事ということになるだろう。

教官が熱心に授業に取り組んでいること。どうしようもないほどだめという印象を持つ学生は少ない。どちらかといえば、教師を元気づける意見が多かった。

マイクの設備特にE号館におけるそれが整っていないこと。しかもその使用法がどうも徹底していないようだ。設備の改善とともに、教官に対する周知およびその前提としての保守・管理の徹底が必要だろう。

専門科目の授業あるいは語学などのクラス指定の授業と、A群科目の授業とのぶつかり合いの問題。こうした事態があるために、「興味もないのに単位獲得のためにとる」といった受講態度がなくならないようである。この問題に関しては系統的に考えてゆく必要があるだろう。

理系の学生にとってのA群科目という問題。「理系の友達などに聞くと、A群科目にはほとんど魅力を感じないそうです」(096)や「理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている」(134)といった意見が何を意味するかを十分考える必要がある。A群科目を必修とする(理系各学部の)制度と「まったく興味がない」「A群科目をとることに意義を感じない」という学生の態度とが明らかにずれている。このずれを放置することによって、大量の「おざなりの受講」「単位のためだけの受講」が大量に発生しているように見える。

## 理系学生とA群科目

上に掲げた ~ のうち、制度的な改善と直接に結びつきそうな内容は、およびだろう。以下ではこのうちの問題すなわち「理系学生とA群科目」の問題を少し考えてみたい。

理系学生といってもむろん一様ではない。しかしその種差にあまりにこだわると、議論が先に行かない。以下ではラフな議論であることは承知の上で、「理系学生」を一括りにして論じることにする。

上記でふれた、理系学生の受講態度に関する096や134の指摘は、授業担当者である我々の実感とも一致する。したがってこのことは一応の事実であると考えてよいだろう。授業担当者と学生双方の徒労感を肥大化させるこうした事態は、やはりあまり望ましいものとはいえない。

この事態を生み出す元凶は何か。しばしば語られてきたのは、授業を供給する側の責任だった。理系学生の興味を引かぬ授業を行い、しかも授業に出ない学生に安易に単位を出している。こうした授業実施が、理系学生のおざなりのA群科目受講を再生産している。これがこの種の問題を語る時のほとんど常套的な語り口だった。

こうした責任帰属の議論に一定の合理性があることは疑いえない。授業担当者は、授業の内容、進め方について改善の努力を怠ってはならない。我々もそのように考え、今回の調査を実施したのだった。だが他方、授業実施の現場にいる者の立場から見ると、「おざなりの受講」の責任を「授業」のみに帰属させるこの議論がやや表面的に見えることも否めない。なぜ表面的なのか。

今ある「理系学生」が、学期始めにいくつかのA群科目の授業に履修届けを出したでしょう。彼ないし彼女は、一、二度それらの授業に顔を出す。だが面白くない。それらの授業のどれにも興味が湧かない。その結果足が遠のく。出席を取らないから好都合だ。単位は心配だが、学期末に何とか対策を立てよう。このようにして「理系の学生にとってA群科目は単位をとるために仕方なく、空いている時間に入れるものと考えられている」(134)という事態が出来る。

足が遠のくのは、たしかに授業が面白くないからだ。その限りで授業実施の現実を批判することに一理はある。だがよく考えてみよう。この学生は、なぜ、自分の興味を少しも喚起しない科目群(A群科目)に履修届けなど出すのだろう。いうまでもない。自分の所属学部が「卒業に必要な単位」の中にA群科目の単位を含めているからだ。つまりこの学生の「A群科目履修」という行動を最終的に規定しているのは、各学部の「卒

業に必要な単位」をめぐる規則なのである。この制度の命令によって「理系学生」は興味の湧かない科目をとらざるをえなくなっている。

となると、理系学生の「おざなりの受講」という現実を考えるとときには、どうしてもこの単位設定の問題そのものを視野に入れる必要があるということになる。さきほど「おざなりの受講」の元凶をA群科目の授業実施のみに見出す議論を「表面的」と形容したが、それは、その議論の中にこの単位設定についての視点が欠落していたからにはほかならない。むしろ、だからといって、ここで各学部の単位設定が「元凶」だなどと主張するつもりはない。ここで言いたいのは、要するに、「おざなりの受講」の出現にあたってはいくつもの要因が絡まっており、その要因の中にはこれまで十分光の当てられてこなかったもの（「単位設定」の問題）があるのではないかと、という穏健な主張にすぎない。

さていま述べた問題意識に沿って現実を見ると、各学部の単位設定（という制度）を支える思想が問題となってくる。各学部、とりわけ（今の問題の即して言うなら）理系の各学部は、なぜ「卒業に必要な単位」の中にA群科目の単位を含めているのか。どのような理念や思想に基づいてその制度が作られているのか。教養教育の必要性の故だろうか。だがその場合、教養教育はどのような意味で必要と考えられているのだろうか。仮にそのことが十分考えられているとして、各学部のその思想は、その学部に所属する学生に正確に伝えられているのだろうか。このような疑問が次々に浮かんでくる。

本報告書の冒頭でふれたワークショップ（2002年11月開催）で、いま述べたような観点から教養教育をめぐる各学部の思想を問うたところ、必ずしも積極的な答えは返ってこなかった（このことについては報告書「京都大学教養教育ワークショップ・全学共通科目の在り方 - 特にA群科目について - 」59頁以下を参照されたい）。だが「理系学生」の「おざなりの受講」の問題を事態に即して考えようとするときには、この論点はやはり無視できないように思われる。今後この問題を考えるときには、このことに十分留意していきたい。



### 第3章 個々の授業に関する学生たちの意見

この章では、「現在受講している上の授業〔回答者が調査票配布時に出席していた授業〕について、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください。」(問 ) という問に対する回答を紹介する。最初に回答を「当該授業についての評価」という観点で分類した結果をグラフで示そう\* (図3 - 1)。

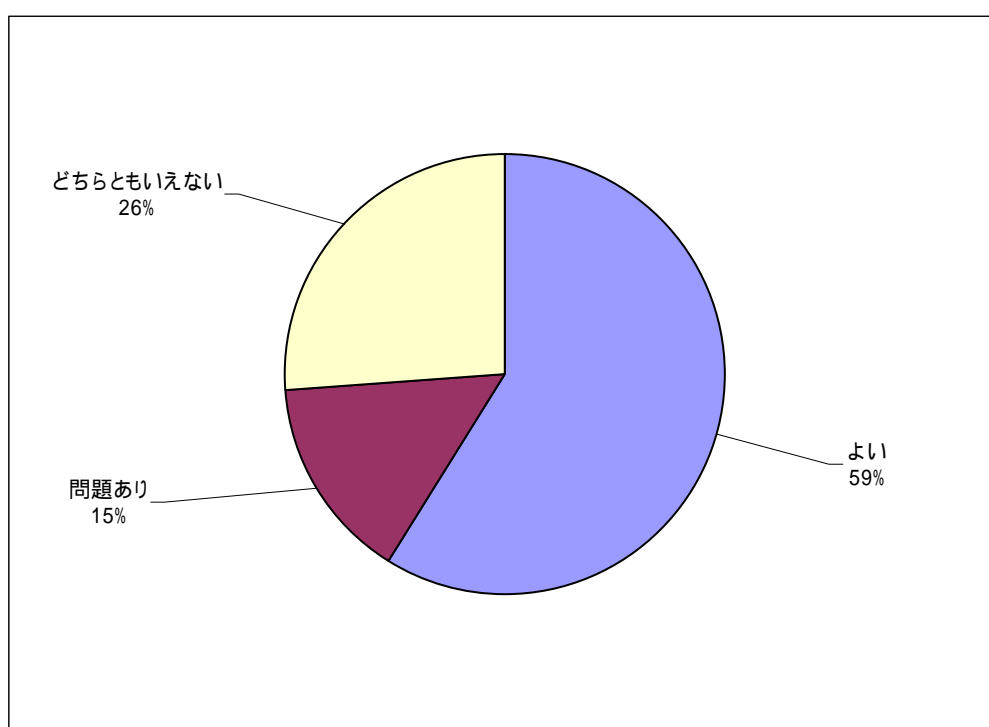


図3 - 1 問 の回答 (当該授業についての評価)

見られるように、6割近い回答が授業に対して「よい」という評価を与えている。

前章同様、項目ごとに回答を紹介してゆくが、回答内容は個々の授業に固有の情報が主であり、一般的な知見をそこから引き出すことは難しい。それゆえ本章では、回答に関するコメントは最小限にとどめ、学生たちの生の言葉で書かれた個々の授業についての感想\*\*をじっくり味わってもらおうと思う。最初に回答内容を項目別に整理したもの

\* 個々の回答における評価の評定には複数の人間が関与し、客観性の保持に留意した。

\*\* 原則として原文のまま掲載している。

をグラフで示しておこう\* (図3 - 2)。

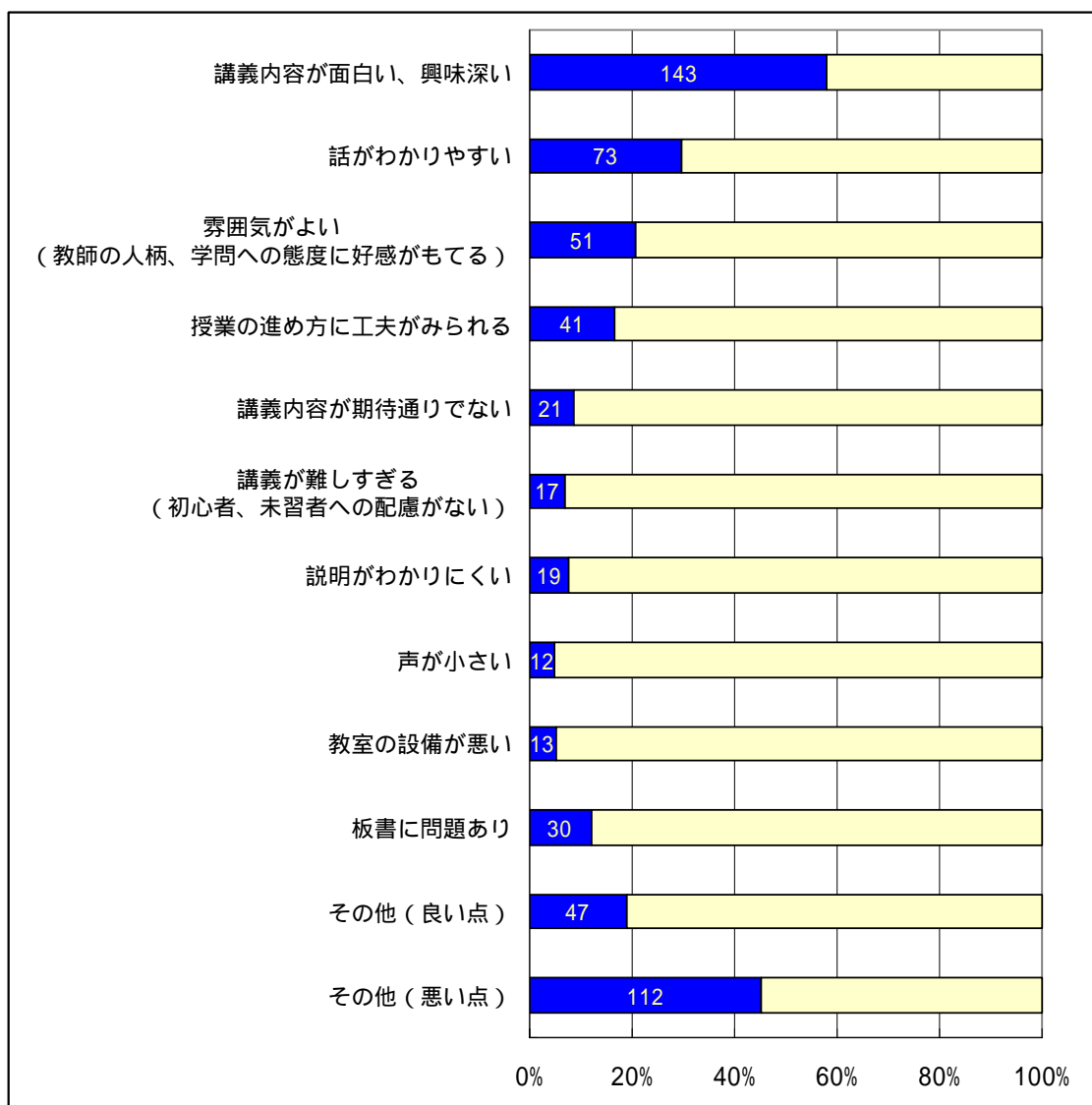


図3 - 2 問 の回答 (項目別)

\*回答数が10に満たなかった項目は、「その他(良い点)」または「その他(悪い点)」のいずれかに分類した。

## 1 講義内容が面白い(143)

延々と先生が講義なさる授業がこんなに面白いと感じたことが意外でした。(行動科学系科目、工学部1回生)

### 010(地域・文化系科目)

非常にいい授業だと思います。先生の熱意が十分に感じられ、先生が専門としておられる分野に魅力を感じさせてやるような授業だと思います。声が非常にはっきりとしていて聞きやすい、先生が「興味深いですね」とおっしゃった事が本当に興味深く感じられる、先生が御自身で撮って来られた写真や様々な具体的な資料を見ることができ臨場感が感じられる、地理を歴史や時代背景とからめて講義されるのがおもしろい、などが具体的な理由です。僕はギリギリになってこの授業をとることに決めたのですが、その時まで期待外れのA群の授業ばかり受けていたのでやっとおもしろい授業に出会えたとの思いがありました。授業には受けたくて受けているものと単位をとるために受けているものがある訳ですが、もちろんこの授業は受けたくて受けているものです。部活との兼ね合いで授業に出られないときもありますが、できる限り出たいと思える授業です。最後に、この授業を受けて良かったと思います。(工学部1回生)

### 038(行動科学系科目)

延々と先生が講義なさる授業がこんなに面白いと感じたことが意外でした。先生について予備知識をもっていたことも一因でしょうが、何よりも続けざまに語られる事例の1つ1つが興味深く新鮮に感じられ、それから導き出された仮説などをおっしゃられる時には(失礼を承知で申し上げます)推理小説のトリックもかくやという感じで目からウロコがこぼれおちます。(工学部1回生)

### 060(複合系科目)

私は、この科目は、全学共通科目の中で1,2を争うほど好きです。まず教科書がよいのです。精神病患者の症例が1例ずつ詳しく書いてあって、授業でならった病名と照らし合わせやすく読んでいて楽しいです。\*\*教官はおっとりした感じの人で、授業の雰囲気がおだやかで居心地がいいです。昼休み後の授業ということもあって、眠くなり

ながら出席することもあります。さぼろうと思ったことは一度もありません。教官の解説は分かりやすく、淡々としていて、たまにギャグを言ってくれます。(教育学部1回生)

066 (行動科学系科目)

一週間のうちで一番おもしろい授業だ。

系統立てて話してくれるし、その時扱っているテーマが社会学全体の中でどういう位置づけをされているのかということをも説明してくれるため、講義の内容もそういうものと理解したうえで納得できる。そういう点で親切。(法学部1回生)

081 (歴史・文明系科目)

世界史が全般的に好きなので、授業は毎回とても面白いです。先生の語り口もとても好きです。……初めの頃の、ゾロアスター教やマニ教の教義についての授業は、高校ではあまり深く習わなかったのもとても新鮮で楽しかったです。あと、せっかく面白そうな教科書が指定されているので、前期だけでは短すぎるとは思いますが、それを利用しても良いと思います。

意見は以上ですが、この授業と一緒に受けている友達にも人気があるし、とてもいい授業だと思います。(文学部1回生)

085 (複合系科目)

幼いころから科学に触れてきた身としても非常におもしろい。さまざまな角度から、一般法則(絶対と言われる法則)が引き起こす問題を提示しているが、そもそも人はなぜ一般法則を求めるのかと言う点も考えてみると興味深い。この問い自体が「なぜ一般法則を求めるのか?」という一般法則を求めているともいえる。その一歩手前として、なぜ人は法則を求めるのだろうかという点にも注目したい。なぜ自然を系統的に知る必要があるのか、動物もそれを必要としているのか。一般法則を導く万能の方法が「神」を持ち出すことであると考え、宗教観と科学観が密接につながっていることもうなずける。(理学部1回生)

116 (芸術・言語文化系科目)

毎回、作品に対する先生の厚い思い入れと、深い読みには感動します。普通に暮らし

ていたら手にとることはなかったであろう作品に触れることができるのも、この授業の魅力です。楽しみにしている授業の1つです。(文学部1回生)

165 (哲学・思想系科目)

理系なので、たまに、こういった文系の話を聞くのは楽しいし、興味深い。理系は理系だけ、文系は文系だけの分野ばかりさしては、視野が狭くなると思う。こういった考え方もあるのかととても感心する。高校の時までには習うどころか、考えさえ及ばなかった所を勉強するというのは楽しい。(工学部1回生)

203 (芸術・言語文化系科目)

フロイトや芸術や世間など様々な視点を客観的にみていくものであり、全学共通科目において、一つの授業でその目的(さまざまな分野のことを学ぶ)を達成しているといえるのではないだろうか。(教育学部1回生)

## 2 話がわかりやすい(73)

教官が教科書をゆっくりと説明してくれるため、非常に分かりやすい。(哲学・思想系科目、総合人間学部1回生)

### 008 (社会科学系科目)

現代のイラク情勢や北朝鮮情勢を中心に国際連合の機能や各国の外交政策、その中で日本の役割などをマクロ的にとらえ、また、歴史的背景なども説明して下さるので、現代の国際情勢を大まかにわかりやすくとらえることができ、あまり予備知識がなくても、興味を持てると思います。(法学部1回生)

### 053 (哲学・思想系科目)

\*\*先生の授業は、内容をかなりかみ砕き、易しい言葉や分かりやすい具体事例を用いて進めており、学生が内容を理解しやすいように配慮しているのが感じられる。授業の最後にその日の内容を大まかにまとめるのも、学生の頭の中を整理するのに役立っている。(法学部1回生)

### 158 (社会科学系科目)

基本的に経済の基本的な用語やそれに関する話題を分かりやすく説明してくれている。特にりそなの問題といった最新の出来事が講義に反映されているのは大変いい。(工学部1回生)

### 196 (哲学・思想系科目)

教官が教科書をゆっくりと説明してくれるため、非常に分かりやすい。……教科書はまあまあ分かりやすい。数学的要素の強いA群科目ではあるが、文系でも十分理解できると思う。教官はユーモアがあって面白いと思う。(総合人間学部1回生)

### 3 雰囲気がい(51)

教官が「オレは歴史が好きなんだー」という熱意をふりまいていていつもおもしろくきいている。ひきつけられる。(歴史・文明系科目、理学部1回生)

#### 031 (芸術・言語文化系科目)

教官はフレンドリーだし、絵を見るのも楽しいし、自分が履修した教科の中では好きな方です。(法学部1回生)

#### 033 (歴史・文明系科目)

いわゆる「歴史」の授業と違い、物語風に語られてききやすい。教官が「オレは歴史が好きなんだー」という熱意をふりまいていていつもおもしろくきいている。ひきつけられる。(理学部1回生)

#### 068 (歴史・文明系科目)

受験の歴史学習とちがう視点から歴史をみられて楽しい。先生自身も教えておられる内容がお好きなのが(?)伝わってきてよどみなく話されるし、ドアを閉めるなど教えることにこだわりを持たれていて好感がもてる。

先生の主張や学説(?)最新の歴史の研究等が混じると嬉しいです。(法学部1回生)

#### 120 (地域・文化系科目)

教官が大変熱心な方で、授業中寝眠りしてしまうと、もうしわけないような気持ちになる。教官は、本当に地理を愛してられる人だなぁということがひしひしと伝わってくる。(工学部1回生)

#### 189 (複合系科目)

教官の人柄の良さがにじみでているような講義で楽しかったです。科学にほとんど縁のない私でもよく分かるようなかみ砕いた説明でよかったです。(法学部1回生)

246 (複合系科目)

この先生は楽しい先生で、私たちが分かるようにていねいに教えて下さります。授業内容も興味深いし、おもしろいです。むずかしいことも分かるようにかみくだいて教えて下さっているのがよく分かります。話してる人がいたらちゃんと注意してだまらせたのは、当然のことだけどうれしいと思いました。大学生にもなって授業中私語するなんてどうかと思うけど、それを注意しない教官もどうかと思います。本当は生徒の方が注意できたらいいけれど、なかなかできないので教官が注意して下さると大変助かります。だから教官がちゃんと私語した人に、怒ってらしたのが印象的でした。字も大きく書いて下さるので黒板も見やすいです。(文学部1回生)



#### 4 授業の進め方に工夫がある（41）

一方的な話で終るのではなくて、授業後に提出するレポートを通じて学生との間接的な対話を試みている点がよい。（行動科学系科目、工学部1回生）

##### 046（地域・文化系科目）

衛星写真を使った歴史地理学の話や、古典から地理を学ぶ試みなど、他ではなかなか体験できない授業内容で、なかなか興味深く、毎週楽しみに受講している。また、ゆっくりと説明があって、ノート等もとりやすくうれしい。（法学部1回生）

##### 073（行動科学系科目）

この授業に関しては文句はありません。他の人はどうかわかりませんが、いつも配られる意見を聞くプリントによって考える機会が与えられ、とてもよい頭の刺激になっていると思っています。一方向的な授業はたいくつなので、こういうアイデアはもっと拡張させても良いと思います。（法学部1回生）

##### 107（社会科学系科目）

この授業は「年間を通じて経済学の歴史を通覧し、原典に立ち向かう際の一助として、一貫した視角の方法論を体得する」という目的がはっきりしてやる気が出る。講義計画もはっきり示されていて、この授業を通して何を学べるのか不安にならずにすむのでうれしい。教官のやる気もあり、全て板書なので休めない雰囲気があってよい。（工学部1回生）

##### 112（行動科学系科目）

この講義では、あらかじめ次の講義に関する補足資料のレジメをホームページにアップロードされており、受講生にとっては、テキストと共に、この資料を利用することで講義の事前準備が揃うので予習・復習に多いに利用させていただいています。（非該当）

168 (行動科学系科目)

一方的な話で終るのではなくて、授業後に提出するレポートを通じて学生との間接的な対話を試みている点がよい。(工学部1回生)

232 (哲学・思想系科目)

“基礎論”系の授業の中でも実際に出席している人数が多く、教室がA南11ではせいまい。

・半期で学ぶ予定の内容や、その時その時のテーマの学問全体での位置付けを適宜説明する点は、講義として優れている。

・2800円のかなりしっかりした教科書を買わざるを得ないが雰囲気がある。(理学部2回生)

## 5 講義の内容が期待通りでない(21)

興味深い内容もあるが、大学の講義としてはやや内容が薄い。(地域・文化系科目、農学部1回生)

006(行動科学系科目)

内容も、なんだか現実の\*\*とは関係ない感じだし、「\*\*学」という名前なのでもっと学問的なことを期待していたけどなんだか違った。(農学部1回生)

147(地域・文化系科目)

ノートがとりづらく、授業の内容が後にあまり残らない。興味深い内容もあるが、大学の講義としてはやや内容が薄い。シラバス通りの授業ではなく、少し残念だった。(農学部1回生)

## 6 講義が難しすぎる ( 17 )

この授業の内容はおもしろいがむずかしいと思います。(行動科学系科目、工学部3回生)

### 037 (社会科学系科目)

講義の内容がさっぱりし過ぎている。私達にある程度の知識が蓄積されているという前提で講義を行っているのかもしれないが、だとしたら現在の高等教育に関する理解が皆無であるといっても過言ではない。だいたい、この教養教育は、自分の将来専門とすべき進路を定めること、もしくはこれまで高校で身につけることのできなかつた他分野の知識を、幅広く取得すること、に意義があると考えられる。故に、既得知識のない分野にも進んで手を伸ばすべきであろう。それでも私達にある程度の知識の蓄積を要求するならば、この教養教育は成り立たない。うっちゃってしまったほうがいい。(文学部1回生)

### 076 (歴史・文明系科目)

「\*\*\*」は一般教養科目であるが、扱われる内容が非常に細部であるため、高校で世界史を履習しなかった学生にとって難解である。西洋史の全体像&アウトラインも知らないのに、細部を考えることなどできない。だから、一般教養として受講したところで教養どころか知識の習得も危ういのである。

ここで一つの提案がある。「\*\*\*」に既習者コースと未習者コースを設け、既習者はより見識を深め、新しく興味を持った未習者は見分を広められるようにする、ということである。

教官は素晴らしい。足りないのは設定科目である。(農学部1回生)

### 183 (行動科学系科目)

この授業の内容はおもしろいがむずかしいと思います。もっと、重要なポイントとそれらの関連等についてはっきり書いてくれるとありがたいと思います。(工学部3回生)

## 7 説明が分かりにくい(19)

同じ事のくり返しが多く、授業の方向性が見えてこない気もする。(社会科学系科目、農学部1回生)

### 050(行動科学系科目)

内容を別として何か新しい発見を見せてくれるとか、ここが大事なんだとかいったものを教えることはせず本当に自分でどうにかしろと言っているような感じを受けます。

私は自分でなんとかしなければと常日頃思っています。ああこれこそ大学なんだと感じさせてくれる講義の1つです。(工学部1回生)

### 086(社会科学系科目)

最近起こった事について考えるという点はなかなかおもしろいが、同じ事のくり返しが多く、授業の方向性が見えてこない気もする。(農学部1回生)

### 159(地域・文化系科目)

授業の本筋に関わる内容に費やす時間が短すぎる。一度90分のうち37分だけというときもあった。余談も聞くのはためになって楽しいのですが、余談の方に時間を割きすぎるのはどうかと思う。(工学部1回生)

## 8 声が小さい(12)

声の調子に起伏がない。小さい。(社会科学系科目、経済学部1回生)

080(社会科学系科目)

声の調子に起伏がない。小さい。(経済学部1回生)

191(歴史・文明系科目)

二時間連続のためか声が小さく、聞き取りにくいように感じるので、マイクを使用してほしい。(薬学部1回生)

## 9 教室の設備が悪い(13)

106(複合系科目)

教室のマイクのハウリングをどうにかしていただきたい。耳ざわり。現在 E21。(文学部3回生)

130(行動科学系科目)

\*\*先生はマイクを持ってらっしゃるが、マイクの電源が入っていないのか地声とさして変わりません。事務員の方に、先生方にマイクの正しい使い方を教えていただくか、セッティングしていただきたい。よく聞こえないところがあったりする。E21 教室は、他の先生もマイクがつかえてません。(法学部1回生)

131(芸術・言語文化系科目)

E21 教室のマイクの使い方が分からず、マイクをあきらめてらっしゃるので、地声ですが、たまに聞こえない時があるので、使い方を教えてあげていただきたい。(法学部1回生)

## 1 0 板書に問題あり(30)

029(歴史・文明系科目)

板書がほとんどなく、また書いても乱雑でまとまりがないため、授業の全体像がつかみにくい。(工学部1回生)

223(行動科学系科目)

もう少し、黒板をうまく使ってノートを取りやすくして欲しかった。(経済学部1回生)

## 1 1 その他(悪い点)(112)

012(歴史・文明系科目)

授業の話はわかりやすいが、板書が少ない。レジュメも資料、統計なので、話を聞きのがすと授業についていけなくなってしまう。(法学部1回生)

023(地域・文化系科目)

生徒が書くのをちゃんと待ってくれるのは嬉しいが、Power Point のファイルを各自がネットでダウンロードできるようにすれば、もっとゆったり話を聞けていいと思う。(薬学部1回生)

061(芸術・言語文化系科目)

少し言いたい点としては、たまにどのページのどこをやっているのかが分からなくなることです。私にとっては、授業で配られるあのプリントは少し見づらいです。(教育学部1回生)

184(社会科学系科目)

レジュメのない日が多く、板書もキーワードだけというのが多いので教官の話す内容を書き取るのが大変。(工学部1回生)

188(歴史・文明系科目)

もう慣れましたが、やっぱり簡字体は少しつらいです。(法学部1回生)

## まとめ

問 の回答内容の検討から得られたことを箇条書きにしてまとめてみよう。

全体として個々の授業についての評価が高かったこと。本章の最初にふれたように、回答の6割ほどが肯定的評価を示しているのだが、実際に回答を読んでもみると、個々の教官がさまざまな工夫や努力をしている様子がきわめて具体的に浮かび上がってくる。むろん回答を寄せたのは、熱心な受講者だろうから、その点は割り引いて考えねばならない。それでも、このようなかたちで個々の授業や学生の受けとめ方の実際が明らかになったことの意味は大きい。

レジュメ、シラバス、休講、遅刻などについての不満があまり目立たなかったこと（本章冒頭のグラフ参照）。通常の「学生による授業評価」では、こうした諸点が「評価」の対象となることが多い。しかし少なくとも熱心な受講者にとっては、これらの点はさほど大きな関心事とはなっていない。

設備についての不具合の指摘があったこと。教職員の立場からはなかなか見えてこない現実が浮かび上がってきた。改善につなげてもらいたいものである。授業実施に関わる技術的な問題の中では、板書についての不満が目立った。ただこの点については、回答者の大半が入学後3ヶ月ほどしか経っていない学生であることを考慮する必要がある。彼らの中にはまだ大学のカルチャを十分身につけていない者もいるだろう。そのような学生が、ノートをとることは「板書された内容を写す」と同義ではないことを理解するには、もう少し時間がかかるのではないか。



## おわりに

以上で 2003 (平成 15) 年 6 月から 7 月にかけて実施した < A 群科目に関する「学生による授業評価」 > についての報告を終える。

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会では、今後もこの種の調査を継続して行い、A 群科目についての学生たちの意見・経験・感想を蓄積していく予定である。そしてそれらのデータの積み重ねの中から、授業改善の可能性を探りたいと考えている。

そのような我々の意図について十分ご理解いただき、本報告書についてもさまざまな角度から忌憚のないご意見、ご叱正を賜れば幸いである。

本報告書をまとめるにあたって、本文のレイアウト、グラフの作成その他で人間・環境学研究科吉田純助教授のお手を煩わせた。厚く御礼申し上げたい。

今回の調査は、学生たちの熱心な回答のおかげで実りのあるものになったと思う。最後になったが、回答を寄せてくれた学生諸君に改めて謝意を表しておきたい。

2004 年 2 月

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会  
授業評価WG

川島昭夫

小山静子

須田千里

大黒弘慈

高橋由典

富田恭彦

2003年6月

A群科目に関する「学生による授業評価」協力をお願い

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会

現在京都大学においては、人間・環境学研究科と理学研究科が全学共通教育の実施責任部局となっていますが、A群科目（C群、D群もそうですが）に関しては、両部局のうち人間・環境学研究科が主体となって教育が行われています。このたび私たち人間・環境学研究科に所属するA群科目（A・B群科目も含む）担当者の集団（「文系群会」といいます）は、自分たちの担当している本年度前期開講のA群科目（A・B群科目も含む）の中から基礎論系講義科目を中心に20の授業科目を選び、「学生による授業評価」を実施することにしました。

A群科目は人文・社会科学の広大な領域をカバーしており、実際に行われている授業内容も多岐にわたります。私たち授業担当者の専門も多様ですが、それぞれの専門と教育理念に即してよい授業を提供しようという共通の志を持っており、その志に即して努力と工夫を重ねています。ところがこれまでのところ、私たちの側のこうした努力や工夫が、学生諸君にどの程度受け入れられ、どのような感想をもたれているかについて系統的に把握する機会がありませんでした。今回の「学生による授業評価」は、その欠を補うべく企画されたものです。諸君たちから寄せられるであろう回答を熟読し、今後の授業内容の改善に役立てていこうと考えています。

通常の「学生による授業評価」は、あらかじめ設定されたいくつかの質問項目（たとえば「授業のわかりやすさ」「教室の設備」「教員の熱意」など）に関して学生諸君が（たとえば）5段階で評価するという方式で行われます。今回私たちはそうした方式を採用しないことにしました。理由は単純です。今の段階では、学生諸君の生の声を聞くことが何より大切と判断したからです。あらかじめ質問項目を設定するためには、学生諸君がその授業に関して考え、感じている内容の範囲についてある程度知っている必要があります。私たちの手元には今のところ、その類の情報十分には蓄積されていません。したがって無理をして質問項目を設定するより、学生諸君に日頃考え、感じていることをまったく自由に書いてもらう方が、諸君の「現実」をとらえる上では有益であると判断しました。

回答してもらう内容は二つあります。では、現在受講しているこの授業について、日頃考え、感じていることを自由に書いてもらおうと思います。（裏面）では、この授業に限らず諸君が現在受けているA群科目の授業全体についての感想、意見を記してもらいたいと思います。先に述べた趣旨が十分理解され、内容の濃い回答が寄せられることを期待します。

回答を書き込んだ用紙は、共通教育教務掛（共通教育棟1階）脇に設置されている専用ポストに入れてください。締め切りは、7月4日（金）午後5時。なお授業を欠席して回答用紙を受け取らなかった人は、共通教育教務掛でも用紙を配布していますので、そこで受け取ってください。また自分の受講している複数の科目で回答を求められた人の場合、はどれか一つの回答用紙における回答によって代表させても構いません。

無記名で回答してもらいますので、回答内容によって諸君たちに不利益が生ずる可能性は一切ありません。また今回の「学生による授業評価」は授業内容の改善のためだけに行われるものであり、回答結果が他の目的のために使用される可能性も一切ありません。回答していただいた結果は、後日何らかのかたちで公表したいと考えています。A群科目のより一層の充実のため、ぜひ回答にご協力ください。よろしく願いいたします。

平成 15 年度前期 A 群科目「学生による授業評価」

人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会

授業科目名 \_\_\_\_\_ 曜・限 \_\_\_\_\_

授業担当教官 \_\_\_\_\_

あなたの学部と回生を記入してください。 \_\_\_\_\_ 学部 \_\_\_\_\_ 回生

現在受講している上の授業について、日頃考えていること、感じていることを自由に書いてください。

(裏につづきます)

A群科目の授業全体について、考えていること、感じていることを自由に書いてください。

ありがとうございました。



A群科目に関する「学生による授業評価」  
報告書

---

平成16年2月発行

編集 京都大学大学院人間・環境学研究科全学共通教育実施委員会・文系群会  
授業評価WG

発行 京都大学共通教育推進部

〒606-8501

京都市左京区吉田二本松町

Tel 075-753-6690

---